

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 4 月 1 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202510		
法人名	有限会社美泉		
事業所名	グループホームよってきんさい古江		
所在地	〒733-0872 広島市西区古江東町1-26 (電話) 082-507-6525		
自己評価作成日	平成26年2月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202510-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>電車・バスなどの交通の便もよく隣には上田宗固流のお茶室があり、閑静な住宅地の中にあるホームです。利用者様の生活暦や体験された事を尊重し、温かい気持ちを持ち接しています。利用者様やご家族にも安心して生活して頂けるサービスを提供出来るよう努めています。花見、敬老会、旅行等の行事を企画し利用者様、ご家族に喜んで頂いています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この事業所は木造の民家改造型であり、それだけにお年寄りにとっては馴染み易く、温もりを感じる生活空間である。美泉が介護事業として設立されたそもそもの動機は「お年寄りをもっときめ細かく、親身にお世話してあげることができないか、私たちの手で安心して暮らせるホームを実現したい」の強い思いからである。その思い・精神は各事業所に引き継がれ『利用者本位のサービスの提供』が徹底されている。「何事も入居者の為に…」の精神が顕著にでているのは『看取り介護』にある。「ホームで看取られたい。」本人・家族の希望があれば病院退院後も事業所で再受入し、終末期介護を実施している。更に春・秋の日帰りバス旅行の他に、毎年恒例の一泊2日、二泊3日の宿泊旅行が実施され、遠方では沖縄や北海道もあり、職員・家族同伴での温泉旅行は生きる喜び、活力源となっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉設立時よりの運営理念があり、いつでも目の届くところに掲示してある。毎朝唱和し、理念を念頭に日々努力している。	法人の理念とは別に、事業所独自の理念が作成されており、それは毎日、朝礼で唱和され、共有に努められている。ただ、それは文書形式となっており暗記しづらい面もある。キーワードを強調するとか、月度の行動目標に落とし込む等、実践に活かし易く、実践度合いを評価し易い工夫がされれば更に理想的なものになる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入しており、地域の清掃や行事に参加している。散歩時には気軽に声をかけてもらい、野菜やお花を頂くこともある。	町内会に加入しており総会にも出席している。また町内会役員を引き受けることもあり町内会費の集金や回覧版の準備等、町内会のお世話もしている。また地域の清掃や行事にも参加し、地域の一員として受け入れられ、散歩時には挨拶を交わすなど日常的な交流もされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内会や推進会議等で質問を受け、お答えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の定期開催により、事業所の活動や利用実績など報告している。会議内での意見は職員会議で報告し、日々のケアに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に一度、地域包括支援センター、町内会長・民生委員・老人会会長等の出席のもと開催されている。運営状況報告につづき意見交換もされているようであるが、議事録にその具体的な発言・討議内容が残され、出された課題は職員間で共有し、サービスの向上に活かされることが望ましい。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護受給者の為に生活課と連絡を密にとっている。地域包括支援センターより会議に参加頂き、報告を行うと共に協力関係を築いている。	生活保護受給者も利用者として受け入れられている為、生活課とは密に連絡を取っている。2ヶ月に一度の割合で生活保護課の来訪もある。なお近々、事業所の新築を計画している関係で普段にもまして市担当窓口とは頻りに確認や相談を繰り返しており、緊密な協力関係が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関及び職員通用口は午前7時から午後8時までは常時開放しており、出入りは自由にしている。市の研修会にも出席し身体拘束のないケアを行っている。</p>	<p>この事業所において身体拘束は『あり得ない、考えられない』ことと受け止められている。例えば利用者が点滴する時は職員が最後までびったりと寄り添う等、身体拘束にならないケアが実践されている。そのことは年2～3回行う社内全体研修でも具体的に、細かく指示がされている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>全職員が社内研修を受け学んでいる。職員同士お互い注意を払い、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内研修や会議、ミーティング等で学び、必要がある時は上司に報告・相談し支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に際しては重要事項説明書・契約書により十分な説明を行い、理解・納得の上で同意の署名・押印を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、また面会時にも意見や要望をお聞きしている。それを管理者会議やミーティングで検討し、推進会議等で報告している。</p>	<p>『家族にしか逃げ場はない。我慢しなさいは禁句』このことが入居時に家族に十分に説明されている。利用者の不平・不満・要望は事業所スタッフには直接は言いにくいだろうの配慮から、事務局代表に連絡下さいと受付電話番号が家族に伝えられ、ホットライン的に活用されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>申し送りやミーティング、互礼会、研修会等の集まりで意見や提案を聞いている。管理者会議にて検討し反映させている。</p>	<p>事業所内で必要に応じて随時、ミーティングを行い職員間の情報の共有・確認事項の徹底等が図られている。またそこで発言された職員の意見・要望は月2回行われる全体の管理者会議に持ち込まれ、皆で討議し全社的な検討が加えられる。勤務時間に「夏・冬時間」の試みがされたのも職員意見を反映させたもの。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年1回の申告書があり、職員は希望や意見を伝えている。研修や勉強会の為の勤務の調整を行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内外や研修の機会を確保し、資格取得の為の援助をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>地域包括支援センター主催の研修に参加している。同業者との交流を図り、良い所は取り入れている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前訪問を行い、本人や家族からお話を伺い、不安や心配がないよう説明し、見学にも来て頂いている。入居後もしっかりお話を聞いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前の面接で家族の困っていること、要望を聞き、入居後も不安や要望に対して支援している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人・家族から話を聞き、その時必要としているサービスを見極め、選択できるよう説明を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の持っている能力を最大に生かし、利用者と一緒に作業を行い一日の生活を共に過ごしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族の訪問時には情報交換をし、相談・助言などを行い共に支えていく関係を築いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居前からの美容院や病院がある方、習い事をされる方など付き添い出掛けている。</p>	<p>公民館での絵画の習い事、ご先祖の墓参りや納骨等、本人が希望すれば職員が付き添いお連れし、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、積極的な支援がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>職員が仲介役として利用者同士の関係を築けるよう配慮し、食事の時間・おやつなどの時間など職員もテーブルにつき一緒に過ごしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>サービス終了後でも希望があればご家族の相談・支援に努めている。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>初回アセスメント等本人・家族に聞き取りを行っている。また日常の利用者との会話の中で、意向や希望の把握など小さな気付きに心掛けている。</p>	<p>「このことはどうして欲しい？」日常生活の中で職員は利用者にさりげなく問いかけ、意向や希望を引き出すことに努めている。部屋からリビングに出たがらない利用者には職員1人が寄り添い、辛抱よく背中をさすり「皆のおるところに行ってみない？」とお連れする等、きめ細かな配慮がされている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居前からアセスメントツールを使用し、本人にそったサービスを提供できるよう努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>全職員で把握し、一人ひとりに適した一日の過ごし方を熟考し過ごして頂けるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族と話し合いを設けケアプランを作成し、説明・同意を頂いている。また家族訪問時を利用し相談を行っている。</p>	<p>介護計画は4ヶ月に一度、見直しを行っている。見直しを行う前の一週間のアセスメントをもとに、部屋担当者・管理者・ケアマネでカンファレンスを開き、基本計画を作成している。それは家族面会時に説明し、郵送により届けた場合は電話での説明を加え、家族の承認をもらったものを決定分としている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の生活日誌の記録、また職員申し送りノートなどで情報を共有し、実践や介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人の意思を尊重し、個々に合わせ柔軟な支援サービスを提供するよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>本人と地域との関係を聞き取りを行い把握に努め、また自治会・民生委員・地域包括支援センターの方々に会議に参加頂き意見交換を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医を把握し、定期受診や緊急時の受診についても主治医と連絡を取り支援している。</p>	<p>提携医による週1回の検診があるが、入居前のかかりつけ医や眼科等の専門医にも職員が対応しお連れし、適切な医療が受けられるように全面的な支援がされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調に変化が見られた場合や日常の気づき等、看護職員と相談し適切な看護・受診が受けられるよう努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時にはホームの生活状況の要約を作成し提供している。また面会時、病院関係者ともこまめに情報交換する様になっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時に意向を伺い、必要に応じ本人・家族・運営者が相談し方針を共有している。その時の容態に合わせ家族・医師・運営者・職員で方針を相談し確認している。</p>	<p>「いつまで此処におれるのでしょうか？」入居時に家族の一番の心配事として必ずこの質問がでる。「ご家族・ご本人が希望すれば最後までここでお世話しますよ」と回答すると家族は安堵のに色を浮かべる。一時、病状悪化で病院に入院した入居者も、本人・家族の希望があれば退院後も受け入れ最後まで皆で看とっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>マニュアルを作成しており、それにそった応急手当ができるよう研修し実践している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>全職員・利用者の参加にて年2回の避難訓練を行っている。推進会議にて話し、協力が得られるようお願いしている。</p>	<p>現在、この事業所はスプリンクラーの設置を見合わせているが近々に新築に建て替え予定で計画が具体的にすすんでいる。防災面での地域との協力は運営推進会議でも議題としてとりあげられ、現在、町内会と相互の防災協定を結ぶ手筈が着々と進められていおり、締結が完了することを期待します。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者への言葉かけや対応など個々の人格を尊重し言葉遣いや態度に気をつけ対応している。	オムツ換えでお布団をはいだ、速やかにバスタオルをかける。利用者がなにか失敗した時も冷静かつ穏やかに話しかけ、人格を傷つけるような声かけはしない。「自分の父・母ならどんな対応がして欲しいが」常に念頭に置くよう指導。徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意思決定を大切にし、自己決定できる場面を作り一緒に考え決めている。職員が決めてしまわないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員本位の行動ではなく、一人ひとりの生活のリズムに合った時間を過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	馴染みの理、美容院にお連れしている。外出時にはスカーフや好みのお化粧品、帽子でおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立に好みを取り入れ、盛り付けなどの準備や片づけを一緒に行っている。	入居時に本人・家族に好き嫌いを聞き、記録している。青魚の苦手な人には煮魚に切り替えて出すよう本人に合わせた対応をしている。盛り付けや下善等、本人の出来る範囲で職員と一緒に食事準備が進められている。お刺身を好む人が多い為、週1回は食卓にだす等、楽しみな食事になるよう気配りされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事、水分量は生活日誌に細かく記録し、栄養士により栄養バランスを保ち一人ひとりの状態に合わせた量や形態で提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを行い、自力困難な方に対しては職員による介助を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>安易におむつ使用を行うのではなく、毎日の習慣にそったトイレ誘導を行っている。夜間は必要時ポータブルトイレを使用し、排泄支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排便チェック表や生活日誌など、常に排便状態を把握するよう努めている。便秘状態では腹部マッサージ、牛乳を飲用したり予防に取り組んでいる。便秘時には医師指示にて下剤を服用して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>日曜日以外は入浴が出来る。希望があれば毎日でも入浴出来る。季節に応じて柚子湯やしょうが湯などで楽しんで頂いている。</p>	<p>月曜日～金曜日の午後の時間帯いつでも利用できるよう準備している。少なくとも週3回は入浴してもらうよう努めているが、本人が希望すれば毎日でも対応している。またゆず湯や入浴剤を使い、楽しい入浴になる配慮もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりに応じ昼寝の時間を取りその時々に応じて休息して頂いている。昼間しっかり活動し、夜間の安眠へとつなげている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬手帳や処方時の説明書きを職員全員が把握し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	一人ひとりの力を活かし洗濯物のたたみ、買い物など役割りを分担している。歌や事業所で行う行事、旅行などに参加し楽しんで頂いている。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	天気の良い日は散歩に出かけている。墓参りや外食など、家族との外出も支援している。	時候の良い時は事業所前の道路を毎日、散歩するが地域の方から「気を付けて！」のねぎらいの声かけもある。回転寿司やココスでの外食も月に一度程度行い、外出の機会を増やすよう心掛けられている。また春・秋の行楽シーズンにバスで花見や紅葉狩り等にも出かけている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族より預かり金として出納帳を作り、外出時には自分で支払えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話を本人が希望された時や家族からかかってきた時いつでも使用できる。子機を使用しプライバシーに配慮している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>事業所内では季節感に応じた空間作りをし、換気・温度調節をし居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>民家を改造しての木造作りなだけに利用者にとっては馴染み易く、落ち着いたのある生活空間である。定期的に空気の入れ替えをしたりカーテンで光の調整をこまめに行い、乾燥しないよう加湿器も置き、快適に過ごせるよう気配りされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室における独りの時間も大切にし、またリビングではソファ等で談笑できる様になっている。くつろげるソファは2ヶ所ある。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室において本人の使い慣れた物、好みのもの、またぬい絵をされた絵など飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>たまに家族から「タンスは新品を買います」と申し出があるが、使い慣れたものをお持ち下さいと説得する場合もある。仏壇・家族写真等、使い慣れたものや思い出の品が持ち込まれ、自分好みの部屋づくりがされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレ・浴室等わかりやすいよう表記し、手摺や入浴バーの設置をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい古江

作成日 平成26年4月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の緊急避難をスムーズに行う	1. 利用者の安全を守る	①夜間の災害に備えて避難訓練を実施(2~3回/年) ②実際に夜間、職員に招集をかける	1年
2			2. 町内会と災害協定の締結	①運営推進会議を通して町内会にお願いする。 ②消防署の方に会議に参加して頂き協力を得る	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。